

ぶっきょうつうしん
仏教通信

てんあくじょうぜん
『 転悪成善 』

がつごう
1月号

きゅうねん おおみそか つきじほんがんに じょやえ さんばい さい けいだい ほうごけいじばん てんあくじょうぜん
旧年の大晦日に築地本願寺の「除夜会」に参拝しました。その際、境内の法語掲示板に書いてあった「転悪成善」という仏教用語に目が止まりました。この「転悪成善」とは「悪を転じて善に成す」とも読み、「仏の教えに出会ったことで、(悪がそのまま善に変わるのではなく、)悪の経験を深く反省しながら善へと成長していく」ことを意味します。この「転悪成善」について語られる仏教説話にアングリマーラという仏弟子が登場します。

アングリマーラは、かつてバラモン教を学んでいましたが、師匠の策略によって99人の人を殺してしまう殺人鬼になってしまいました。しかし、100人目の標的となったお釈迦様と出会うことにより、自らの犯した罪の深さを知り、改心するのです。ところが、お釈迦様の教えを実践し、人々のために尽くそうとするアングリマーラに対し、村の人々は暴力や罵りの言葉をぶつけていきます。今まで、多くの人々の命を奪い、返り血を浴びていたアングリマーラでしたが、今度は自分の血で血まみれになりました。お釈迦様は、托鉢に行くたびに傷だらけで戻ってくるアングリマーラに、「アングリマーラよ。人々からの迫害を受け入れて耐えよ。お前に殺されていった人たちの恐怖や悲しみ、苦しみを、今、お前が受けているのだ。全てのものを慈しみ、人生をかけてつぐなうことで、お前はこの世を照らす月となるのだ」とおっしゃいました。その言葉を聞いたアングリマーラは「私は、多くの命を奪ったため、人々から恐れられ『アングリマーラ(指で作った首飾り)』と呼ばれるようになりました。そんな私が、お釈迦様の導きで慈悲の心を知ることができました。私のような極悪人の心を救ってください、ありがとうございます。私は自ら命を断つことはありません。この命が尽きるまで、お釈迦様の教えをまもり、人々に尽くします」(『央掘摩経』
いやく ちか
意識)と誓ったのです。

ぶっきょう かいしん じぶん なか あく こころ じぶん おか つみ しょうめつ じんせい
仏教では、改心したからといって、自分の中にある「悪の心」や自分の犯した「罪」が消滅し、人生がリセットされるわけではありません。今まで自分が行ってきた「業(行動・言葉による行為や精神的な作用)」を背負って、生きていかないとはいけません。親鸞聖人は、欲望や怒り、妬み、憎しみという負の感情から逃れられない自分の「悪」を素直に認め、悪い縁に会えばアングリマーラのように悪に染まってしまう恐ろしい自分を自覚することが大切であると説いています。懺悔会・終業式の法話で、学院長先生が話してくれましたが、自分の悪い心に気づくだけでなく、それを深く反省し、過ちを悔い改める努力を続けるのが仏教の教えなのです。

しんねん むか こうのだいじょしがくいん まな みな てんあくじょうぜん し
新年を迎えるにあたり、国府台女子学院で学んでいる皆さんには、「転悪成善」を知り、
こころあら ねん あゆ ねん がっしょう
心新たに2025年を歩んでほしいと念じています。合掌

がつき ぶっきょうちようれい がつ にち きん にち きん がつ にち きん にち きん きん おこな
3学期の仏教朝礼は1月24日(金)・31日(金)、2月7日(金)・14日(金)・21日(金)に行います。



<築地本願寺 法語掲示板より>